

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670900267
法人名	有限会社 さつま福祉会
事業所名	グループホーム さつま苑
訪問調査日	平成19年7月25日
評価確定日	平成19年8月25日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670900267
法人名	有限会社 さつま福祉会
事業所名	さつま苑
所在地	大口市針持1235-8番地 (電話) 0995-25-2000

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成19年 7月25日

【情報提供票より】(平成19年 7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 12月 17日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	19人 常勤 9人, 非常勤 10人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800円

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	0名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 84歳	最低	71歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下田医院 寺田医院 たけ歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域への貢献」を目的に建てられたホームは、隣接する温泉施設とともに地域の方々の憩いの場となっている。また、温泉施設では宿泊や食事を楽しむことも出来ることから、入居者のご家族がホームを訪れ、ともに食事したり、宿泊されたりと、その特徴を十分に活かしたサービスも提供されている。日々の暮らしにおいても、食事の準備や掃除、洗濯、裁縫など入居者それぞれの生活歴や今出来ることをふまえて一緒に行うなど、ホームにおいて職員との共同生活を実践しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) チームケアのための会議については、毎月及び随時の職員会議を開催して、互いに意見交換しながら質の向上に努めている。緊急時の手当については、マニュアルを作成し周知を図ったほか、消防署の協力で心配蘇生法の勉強会を実施している。食事を楽しむことの支援については、行事の際と一緒に食事したり、食事介助者がお茶と一緒に飲むなどの工夫が見られるが、検査者以外と一緒に食事することは難しい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を職員全員で行い、外部評価の結果も職員会議等で具体的に話し合い、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に会議が開催され、入居者やサービスの実際、評価の取り組みの状況等について報告され、サービスの向上に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日頃から、入居者やご家族に何でも言ってもらえるように、声かけや雰囲気作りに努めている。出された意見は早速検討し、運営推進会議でも報告して、サービス向上のために活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣に民家は少ないものの、地域の老人会や近くの小学校の生徒たちとの交流がある。催し物の開催時には一人暮らしの高齢者を招待したり、地域住民と一緒に沿道にコスモスを植える計画もあるなど、積極的な取り組みが見られる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域で、地域とふれあいのある暮らしを支えて行く」という、独自の理念のつくりあげている		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が分かりやすいところに掲げられ、毎朝のミーティングや職員会議の中でも、理念の実践に向けての話し合いがなされている		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に民家は少ないものの、地域の老人会や近くの小学校の生徒との交流がある。催し物の開催時には一人暮らしの高齢者を招待したり、地域住民と一緒に沿道にコスモスを植える計画もあるなど、積極的な取り組みが見られる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行い、外部評価の結果も職員会議等で具体的に話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議が開催され、入居者やサービスの実際、評価の取り組みの状況等について報告され、サービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から市町村担当者にホームの実情やサービスの取り組みを報告し、相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時や通院同行時に、ご家族が遠方の場合は手紙や電話等で、随時、入居者の状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、入居者やご家族に何でも言っていただけるように声かけや雰囲気づくりに努めている。出された意見は早速検討し、運営推進会議でも報告して、サービス向上のために活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は職員の入れ替わりも見られたが、現在は落ち着き、入居者にとって馴染みの職員が継続的に支えられる体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議において、勉強会が行われている。外部研修については管理者及び計画作成担当者の受講が主であるが、受講後職員への報告により知識の還元が行われている。新入職員に対してはオリエンテーションの後、ベテラン職員によるOJTが実施されている。年間計画や職員の段階に応じた研修計画は作成されていない。	○	外部研修等の参加にやや偏りが見られる。職員を段階に応じて育成するために必要な研修受講を含め、計画的な研修体制の確立に期待したい
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・県のグループホーム協議会に入会し、機関紙等による研修を行うと共に、近隣のグループホームや小規模多機能施設との意見交換をしてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・ご家族にホームを見学して実際の状況を見ていただき、職員との面談等を行った上で納得して利用できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「互いにくつろぎ 互いにやすらぎ」の理念に基づき、職員は入居者と共に生活する家族という意識のもと、地域の風習等、多くのことを教えてもらいながら、お互いに支えあう場面づくりや声かけへの配慮が見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・ご家族の声や思いを、日頃から十分に聞こうという姿勢が見られる。また、聴取した内容に関しては、職員会議等で検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の職員会議等で、入居者・ご家族の希望、主治医の意見、職員の気付きを、介護計画立案の検討材料としている。介護計画立案時は本人・ご家族からの確認もなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直し、状態変化時は随時の見直しがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の来訪、宿泊時は、隣接の温泉施設・民宿を気軽に利用できるように支援されている。入居者の希望による外出(墓参り等)やご家族が遠方で関われない支援に対しても、代行・同行支援も随時行われる体制である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通いながれた医療機関への通院の支援を心がけ、ご家族が同行できない場合は、代行して職員が通院支援を行い、ご家族が同伴される場合も、入居者の状況把握の為に、職員も同行・面談し、日常的に主治医との連携に取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況の変化を常に報告しながら、ご家族の意向を確認し、主治医や職員と話し合いを行っている。ホームでは終末期まで支援する意向は見られるが、まだ職員間では対応への不安も感じられる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴や排泄の介助においては、羞恥心に配慮した支援が行われている。日頃から入居者の人格を尊重したケアに努めているが、認知症による言動に対して大きな声で対応するなど、やや配慮に欠けるときもある。個人情報に関しては、入居時に同意書をいただき、適切に取り扱われている。	○	入居者の尊厳と権利を守るためには、一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことは必須の事項である。認知症特有の言動に対する対応について、管理者をはじめ、職員全体でさらに検討していただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者のその時の状況・状態に合わせた支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等に関しては、食材の下ごしらえから調理まで、入居者と職員が共に行い、楽しい雰囲気のもとで行われている。しかし、食事の際は、多くの職員が見守りに専念しており、入居者と共に楽しみながらという雰囲気にはやや欠ける。	○	職員と一緒に食事をする事で、入居者もさらにゆっくりとしたペースで楽しい雰囲気での食事ができるものと思われるので、今後検討していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望やタイミングに合わせた入浴の支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者と相談しながら、外出の計画・実施や、これまでの生活歴を踏まえた活動支援(調理・裁縫等)がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の状態を見ながら、近隣へ散歩・買い物など外出の積極的な支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、センサーにて人の出入りを確認している。入居者の状態を細かく把握することで対応を考慮し、声掛けや一緒について行ったりするなどの配慮がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、運営推進委員も一緒に避難訓練を行っている。地域の協力体制についても、消防署や自治会・近隣の方々・運営推進会議等で随時協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況について毎日チェックされているが、具体的な内容の記録が十分とは言えない。	○	個別のチェック、内容の記録を行い、入居者の具体的な状態把握に努めていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や室内の照明は、入居者の状態に合わせて随時調整されている。居間が台所に隣接していることで、調理に関する音やにおいなど、自然に五感を刺激するように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が使い慣れた家具や日用品が持ち込まれ、ベッドは既存のものであるが、身体の状態に合わせてマットレスのみにするなど細かな配慮が見られる。		